

○豚丹毒発生!!対策は万全ですか?

当所管内で豚丹毒が発生しています。

高温多湿な夏は、豚丹毒が発生しやすくなります。

近年、国内で新しい遺伝子型を示す豚丹毒菌による敗血症型の豚丹毒が問題となっていますが、現行のワクチンでも発症は予防できます。適切なワクチン接種を実施し、豚丹毒の被害を防ぎましょう。

生ワクチンの場合

皮下に1回接種します。

抗菌性物質の影響を受けやすいため、飼料添加薬剤の使用に注意する必要があります。また、移行抗体の影響を受けやすいため、特に発生農場では農場の状態を把握し、ワクチン接種適期を確認しましょう。

不活化ワクチンの場合

筋肉内に3~5週間隔で2回接種します。

抗菌性物質や移行抗体の影響を受けにくいです。



豚が大量死する疾病は豚丹毒だけではありません。必ず獣医師あるいは家畜保健衛生所に届け出て適切な診断、治療を受けてください!!

<参考>

豚丹毒:豚丹毒菌によって起こる感染症

症状:①急性敗血症型

40℃以上の高熱が突発し、1~2日で急死する。死亡率は高い。

②蕁麻疹型

発熱・食欲不振に加えて菱形疹と呼ばれる特徴的な皮膚病変を示す。

③関節炎型

四肢関節に関節炎が起こり、関節の腫脹や跛行が見られる。

④心内膜炎型

心臓内の弁にカリフラワー状の腫瘤が形成される。多くは無症状で、と畜場で発見される。

今回の事例は急性敗血症型!!

※豚丹毒菌はヒトにも感染します!!

症状としては、皮膚病型(類丹毒)、全身性皮膚病型、敗血症型(感染性心内膜炎を併発することが多い)があります。

★死亡家畜は適正に処理してください。